

松川浦定地水温の長期トレンドについて

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—その他—アサリ・ヒトエグサ

2 担当者名

舟木優斗

3 要旨

海水温は内湾性水産物の生存や生殖に大きな影響を与えることが知られている。そこで、1993～2022年までの松川浦の月別平均水温を平年偏差により評価した。1993～2022年全期間のトレンドはみられなかったが、月別では6月と8月で有意な上昇トレンドを示した。

- 1993～2022年までの松川浦定地水温の月別平均水温を使用した。
- 佐伯ら(2016)に倣い、月別の平年値を求め、各年の月別平均水温から減算し平年偏差値を求めて解析を行った。水温トレンドは回帰分析とマン・ケンドール検定の両方で有意な場合に有意なトレンドと判断した。
- 全期間のトレンドはみられなかったが、6月と8月で有意な上昇トレンドがみられた(表1)。
- 近年、松川浦の生産現場から、夏季の高水温の影響とみられるアサリのへい死、ヒトエグサ採苗時の適期判断及び種付けの出来に不安の声が挙がっている。生産現場での事象を把握し、本結果が示した夏季の水温上昇トレンドとの関連性について、精査が必要と考えられる。

表1 定地水温トレンド分析の結果

	回帰分析		マン・ケンドール検定(p値)
	変化幅(°C/年)	p値(傾き)	
1月	-0.01	n. s	n. s
2月	0.00	n. s	n. s
3月	0.03	n. s	n. s
4月	0.02	n. s	n. s
5月	0.02	n. s	n. s
6月	0.04	**	*
7月	0.06	*	n. s
8月	0.05	*	*
9月	0.03	n. s	n. s
10月	0.01	n. s	n. s
11月	0.02	n. s	n. s
12月	0.01	n. s	n. s
全期間	0.00	n. s	n. s

p>0.05:n. s, p<0.05:*, p<0.01:**

灰色のセルは両検定で有意

4 成果を得た課題名

- 研究期間 令和3～7年度
- 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

5 主な参考文献・資料

- 佐伯光広, 稲田真一, 小野寺毅, 永木利幸(2016). 宮城県沿岸における海水温の長期トレンド. 宮城県水産研究報告, 16, 1-9.